

安全データシート(SDS)

1 化学品及び会社情報

製品名 : Easy Plate YM-R (製品コード 61977)
会社情報
会社名 : キッコーマンバイオケミファ株式会社
住所 : 〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目1番1号
電話番号 : 03-5521-5493
Fax 番号 : 03-5521-5498
推奨用途及び使用上の制限 : 真菌(カビ・酵母)数測定用

2 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

生殖毒性 : 区分 1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 2 (中枢神経系、視覚器、全身毒性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 2 (中枢神経系、視覚器)

※物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分外」、「分類対象外」、「分類できない」のいずれかである。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害のおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害のおそれ

注意書き

[安全対策] : 使用前に取扱説明書を入手すること。SDSを読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん/煙を吸入しないこと。取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。保護手袋を着用すること。
[応急措置] : ばく露、又はばく露の懸念がある場合、気分が悪い場合は、医師に連絡し、診断/手当を受けること。
[保管] : 施錠して保管すること。
[廃棄] : 関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。
他の危険有害性 : 情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成および成分情報

No.	化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	濃度又は濃度範囲 (wt.%)
1	多糖類	-	-	50-70
2	ポリビニルピロリドン	9003-39-8	-	10-20
3	ポリエチレングリコール	25322-68-3	7-129	5-15
4	培地栄養成分	-	-	20-30
5	メタノール	67-56-1	2-201	<2.0

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

(基材シート、カバーフィルム素材)

1	ポリプロピレン基剤
2	ポリプロピレンフィルム
3	エチレン酢酸ビニル共重合樹脂系ホットメルト剤
4	合成ゴム系ホットメルト剤

4 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気を吸入すること。
皮膚に付着した場合	: きれいな流水で十分に洗浄すること。
眼に入った場合	: きれいな流水で十分に洗眼すること。
飲み込んだ場合	: きれいな水で十分に口をすすぐこと。
※以上の措置後、身体に異常がある場合は、医師の診断/手当てを受けること。	

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	: 情報なし

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 保護手袋を着用すること。
環境に関する注意事項	: 使用済みの製品は2次汚染の危険性があるため、適切な滅菌処理を行うこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 同上

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	: 通常の使用条件で使用する。
保管	: 冷蔵庫(2~8℃)に保管。

8 ばく露防止及び保護措置

保護具	
呼吸器保護具	: 特別な保護具は必要無し。
手の保護具	: 保護手袋を着用すること。
眼の保護具	: 特別な保護具は必要無し。
皮膚及び身体の保護具	: 特別な保護具は必要無し。

9 物理的及び化学的性質

外観 (物理化学的状態、形状、色など)	形状: シート	色: 基材 白色 カバーフィルム 透明 培養エリア 淡黄色
臭い	: チーズ臭	
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 情報なし	
可燃性	: 情報なし	
爆発下限界および爆発上限界/可燃限界	: 情報なし	
引火点	: 情報なし	
自然発火点	: 情報なし	
分解温度	: 情報なし	
pH	: 情報なし	
動粘性率	: 情報なし	

蒸気圧 : 情報なし
 密度及び／又は相対密度 : 情報なし
 相対ガス密度 : 情報なし
 粒子特性 : 情報なし

10 安定性及び反応性

反応性及び化学的安定性 : 通常の取扱条件においては安定である。
 危険有害反応可能性 : 危険な重合は起こらない。
 避けるべき条件 : 情報なし
 混触危険物質 : 情報なし
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、リン酸化物

11 有害性情報

急性毒性 : 情報なし
 皮膚腐食性／刺激性 : 情報なし
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 情報なし
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 情報なし
 生殖細胞変異原性 : 情報なし
 発がん性 : 情報なし
 生殖毒性 : メタノール(区分 1B)

妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ[PATY (5th, 2001)]、さらに別の吸入または経口暴露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている[EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)]。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があることから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性がある結論されている[NTP-CERHR Monograph (2003)]。以上によりヒトに対して生殖毒性があると考えられる物質とみなされるので区分 1B とした。

メタノールの濃度が $\geq 0.3\%$ のため、区分 1B とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: メタノール(中枢神経系、視覚器、全身毒性; 区分 1)

ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、クスマウル呼吸、クスマウル昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997))。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2001))もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている(DFGOT vol.16 (2001))。これらのヒトの情報に基づき区分 1(中枢神経系)とした。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した。一方、マウスおよびラットの吸入ばく露による所見に「麻酔」が記載され(EHC 196 (1997)、PATY (5th, 2001))、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている(PATY (5th, 2001))ので、区分 3(麻酔作用)とした。

メタノールの濃度が $\geq 1.0\%$ 、 $< 10\%$ のため、区分 2 に分類した。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: メタノール(中枢神経系、視覚器; 区分 1)

ヒトの低濃度メタノールの長期暴露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述(EHC 196 (1997))や職業上のメタノール暴露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述(ACGIH (7th, 2001))から区分 1(視覚器)とした。また、メタノール蒸気に繰り返し暴露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述(ACGIH (7th, 2001))から、区分 1(中枢神経系)とした。なお、ラットを用いた経口投与試

験で肝臓重量変化や肝細胞肥大(PATTY(5th, 2001)、IRIS(2005))などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。
メタノールの濃度が $\geq 1.0\%$ 、 $< 10\%$ のため、区分2に分類した。
: 情報なし

誤えん有害性

12 環境影響情報

生態毒性 : 情報なし
残留性・分解性 : 情報なし
生態蓄積性 : 情報なし
土壤中の移動性 : 情報なし
オゾン層への有害性 : 情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 使用済みの本製品は2次汚染の危険性があるので、適切な滅菌処理を行うこと。廃棄においては、関係法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
包装 : 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14 輸送上の注意

国連番号 : 非該当
国連輸送名 : 非該当
国連分類 : 非該当
容器等級 : 非該当

15 適用法令

消防法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき物質(第57条)
名称等を通知すべき物質(第57条の2)
メタノール(政令番号 別表第9の560)
化学物質排出把握管理促進法 : 非該当

16 その他の情報

参考文献:
1) NITE CHRIP (http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/SystemTop_jp.faces)
2) JIS Z 7252: 2019
3) JIS Z 7253: 2019
4) Globally Harmonized System of classification and labeling of chemicals, (6th ed., 2015), UN

【注意】

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。
本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において取り扱って下さい。
また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。